

海外安全対策情報（ポルトガル・2026年4月～6月）

1 治安情勢及び邦人被害の状況

（１） 2025年の犯罪発生状況

2025年の一般犯罪認知件数は365,802件で、前年比3.1%増加し、凶悪重大犯罪の認知件数は14,149件で、前年比では1.6%減少しました。凶悪重大犯罪の犯罪全体に占める割合は約3.9%です。

2025年中の一般犯罪の主要な罪種は、家庭内暴力が25,357件、暴行・傷害が24,407件、脅迫・強要が16,896件、置引きが11,004件、すりが7,443件、住居侵入盗が7,546件、無免許運転が14,301件でした。凶悪犯罪の中では、昨2024年に引き続き路上強盗が4,885件、ひったくりが2,017件と多くを占めています。

地域 (Distrito) 別の犯罪の発生については、リスボンが85,302件、ポルトが57,453件、セトゥーバルが34,055件となっています。

（２） その他犯罪発生状況

ア 詐欺事件(夏季休暇の宿泊予約詐欺に警鐘)

治安警察庁 (PSP) は、Airbnb と連携して夏季休暇の宿泊予約に際して、偽サイトやプラットフォーム外の決済を誘う手口が増加していることに警鐘を鳴らしています。安全に予約するためには、以下にご注意ください。

- ① 予期せぬリンクや添付は開かない
- ② 疑いがあればやり取り（メール・メッセージ・画像）を保存し速やかに通報する
- ③ 即決を迫る・極端に安いオファーは中止する
- ④ Airbnb 外での連絡・支払いは拒否し、正規アプリやサイトのみを使用する
- ⑤ パスワードの使い回しを避け、多要素認証を有効化する。



イ 上半期窃盗事件

リスボン首都圏司令部 (COMETLIS) によると本年1月から6月のリスボン首都圏のすり、置引きは、1,770件で前年比同期から9.5%増加しました。1日の被害届の数は約10件です。被害者の73%は外国籍で、観光との関連性が示唆されています。同種犯罪の発生地域の内訳は、リスボン46%、ポルト26%、ファロ7%、セトゥーバル5%となっており、観光地区や公共交通機関で発生しています。

ウ 第1四半期の交通事故について

治安警察庁 (PSP) が発表した2026年第1四半期の交通事故件数は15,080件発生し、前年同時期より1,488件増加しました。交通犯罪による逮捕件数は3,206件で、そのうち1,501件が飲酒運転、1,033件が無免許運転でした。国家安全当局 (ANSR) の7

月中旬までの事故件数は、約 8.6 万件が記録され、死者、重傷者は昨年よりも増加傾向にあります。

(3) 邦人被害

2026 年 4 月から 6 月の間、大使館に届出があった邦人の犯罪被害件数は 13 件で、すり及び置引きの被害を中心に、観光シーズンが始まり増加しています。（当館注：本年 1 月から 3 月の当館への犯罪被害届出数は 4 件。）

特にリスボン市内及びポルト市内において発生しており、バックパックやショルダーバッグのファスナーを開けられ、貴重品を抜き取られています。人の多い場所では、**歩いても鞆は正面で持つなど盗難対策をしましょう。**



路上や観光スポットはもちろん、レストランやホテルのロビーにも窃盗グループが常駐し、犯行の機会を窺っています。食事の際、路上演奏を聴く際、写真を撮影する際、チケットを購入する際などには、手荷物を常に視界に入れて、被害に遭わないよう気をつけて下さい。

4 月 すり 1 件（リスボン）、置引き 1 件（リスボン）

5 月 すり 2 件（リスボン、ポルト）

6 月 すり 8 件（リスボン、シントラ、ロカ岬）、置引き 2 件（リスボン）

※ ご旅行に際しては、在ポルトガル大使館作成「安全の手引き」をご覧ください、外務省海外安全情報配信サービス「たびレジ」への登録もお願いします。

2 報道された主な凶悪犯罪

(1) 殺人

- ・ 4 月 13 日、マリーニャ・グランデにおいて家賃を巡り借主（61 歳）が家主（63 歳）を刺殺しました。
- ・ 4 月 30 日、ロウレスにおいて、小型貨物車内の男性が至近距離で銃撃され死亡しました。
- ・ 5 月 22 日、アマドーラにおいて 17 歳少年が銃器によって 44 歳男性を複数回銃撃し殺害しました。
- ・ 5 月 28 日、セトゥーバル、バレイロにおいて、深夜 3 時頃、駐車した車内にいた男性 2 名（22 歳、24 歳）が至近距離から連射され死亡しました。

(2) 強盗

- ・ 4 月 2 日深夜、ヴィアナ・ド・カステロ、モンサンにおいて、被疑者が 88 歳の老人宅に押し入り、頭部を攻撃し、20 ユーロの入った缶を持って逃走しました。
- ・ 4 月 13 日カルニデにおいて、被疑者が住宅に押し入り、銃で住人を脅して携帯電話等を盗みましたが、駆けつけた警察官に逮捕されました。
- ・ 5 月 15 日アマドーラにおいて、宝飾店に覆面 2 人組が侵入、発砲により威嚇し、現金、貴金属合計約 9 千ユーロを盗んで逃走しました。

- ・ 6月14日、深夜零時頃、リスボン・マルヴィラ地区において、レストランオーナーが拳銃で武装した5人組に脅され、金のネックレス、ブレスレット4本合計約10万ユーロ相当を盗まれました。

(3) 恐喝・監禁等

- ・ 4月15日、リスボン、カイス・ド・ソドレ地区において被疑者9名（17～41歳）は観光客2名に薬物を売りつけた後、拘束してATMで現金の引出を強要しました。
- ・ 5月16日、リスボン、アルカンタラ地区において、被疑者4名（18歳～24歳男性）は、被害者2名を拘束し、そのうち1名をATMまで連れて行き現金900ユーロの引出を強要しました。
- ・ 6月、フィゲイラ・ダ・フォスにおいて、被疑者2名は共犯者の女性と一緒にいた被害者男性を拉致、暴行した上、銃器を使用してATMから現金の引出を複数回強要しました。

3 テロ・爆弾事件発生状況

テロ等事件の把握はありません。

4 誘拐事件発生状況

外国人を標的とした政治目的、身代金目的等誘拐事件の把握はありません。

5 対日感情

良好です。

6 日本企業の安全に関する諸問題

外国籍（日本資本を含む）企業が、犯罪に巻き込まれた情報の把握はありません。